

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

学校が地域等と連携して研修に取り組む実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

福島県西白河郡西郷村

○学校名

西郷幼稚園、熊倉小学校、小田倉小学校、米小学校、羽太小学校、川谷小学校
西郷第一中学校、西郷第二中学校、川谷中学校

○学校のURL

<http://www.vill.nishigo.fukushima.jp/view.rbz?nd=164&ik=1&pn=119&pn=164&cd=465>

2. 学校紹介

○学級数

西郷幼稚園(2学級)、熊倉小学校(16学級)、小田倉小学校(21学級)、米小学校(9学級)、羽太小学校(6学級)、川谷小学校(4学級)、西郷第一中学校(13学級)、西郷第二中学校(12学級)、川谷中学校(3学級)

○児童生徒数

【全児童生徒数】(平成25年5月1日現在)
西郷幼稚園(50人)、小学校(387人)、小田倉小学校(461人)、米小学校(173人)、羽太小学校(83人)、川谷小学校(41人)、西郷第一中学校(332人)、西郷第二中学校(268人)、川谷中学校(24人)

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【西郷村教育理念】 『自立と共生』
【基本目標】『可能性』と『かかわり』と『生きがい』を大切にしたい人づくり
【西郷村人権教育テーマ】
自分を大切に、他の人を思いやることのできる人づくり
～ みんなで見守り、みんなで育む人権教育 ～

○人権教育にかかる取組の全体概要

村内全地域での人権意識かん養の機会と場を創意工夫した人権教育の推進

- ・ 人権教育の課題について学ぶ場と機会の設定
人権教育における今日的課題並びに各中学校区、各学校、園の個別の課題について幼児・児童・生徒及び保護者、地域住民、関係機関が学ぶ機会を設ける。
- ・ 人権感覚を育てる具体的な機会と場の設定
人権感覚を育てるための協力的な学習、参加的な学習、体験的な学習などの具体的な人権教育の機会と場を設ける。
- ・ 無意識の人権教育の意識化
現在行われている無意識の人権教育を意識化し、効果的に人権教育を進めるための人権教育全体計画の見直し、様々な活動への人権教育のねらいの明確化による取り組みを行う。

3. 特色ある実践事例の内容

◆ 「自分を大切にし、他の人を思いやることのできる人づくり」への取組
(取組のねらい)

西郷村では「自立と共生」を教育理念として掲げている。これは「自分のために、人のために、自立し、共生できる人づくり」ということである。また、人権教育は、「人権尊重の精神のかん養を目的とする教育活動」とされている。つまり、「自分を人として大切にす。そして他の人を尊重できる国民の育成」をすることが人権教育の目的であり、人権教育の充実による人づくりが本村の教育理念「自立と共生」を具現化することにつながるものとする。

(取組を始めたきっかけ)

現在、社会においてはいじめ問題、児童虐待など人権に関わる様々な問題が多発している。このことは、西郷村においても喫緊の課題であると捉えている。そこで人権教育総合推進地域事業の委託を受け、学校を核とし、家庭・地域・関係諸機関と連携して村内の全地域で人権教育に取り組むことによって、課題を解決し、子供たちのより良い育ちをみんなで支援していくこととなった。

(取組の内容)

○ 人権教育の課題について学ぶ場と機会の設定

大学教授等を招へいし、「学校・家庭・地域の連携による人権教育」「人権教育と道徳教育」「学校における人権教育の意義と課題」などの講演会を複数回実施することにより、人権教育に関する研修を行った。講演会では、「誰の心にもある差別の芽」「なぜ人権教育を学ぶ必要があるのか」「人権とは何か」「人権教育と道徳教育」「人権教育の展開」など、人権教育についての理解を深め、学校・家庭・地域それぞれの立場から推進する基礎を学ぶ機会となった。



また、人権教育を推進するに当たり、先進地である宇都宮市教育委員会を訪問し、平成22～24年度人権教育総合推進地域事業モデル地区の取組について研修した。この地区では、地域の人権意識の現状を把握するための人権意識アンケートの実施、人権啓発のための「ふれあいトーク&コンサート」や「人権講演会」の実施等に取り組んできた。それらを通して、地域住民に対して「人権が誰にとっても身近であること」「人権問題の解決のためには、相手に対する思いやりの心を持つことが大切であること」について啓発を図ってきたことを学んだ。

○ 人権感覚を育てる具体的な機会と場の設定

西郷村では、村立幼稚園・小中学校すべてが連携して人権教育に取り組んできた。道徳や学級活動など、人権に関わるテーマで全クラスが地域や保護者への授業公開、そして地域住民や関係機関を交えて人権教育に関するテーマを





設けた懇談会を実施してきた。また、人権擁護委員との連携のもとに、すべての小学校において人権教室や人権の花運動を展開し、紙芝居などを使って子供たちの人権感覚を育てる取組を行っている。

「協力的な学習」の1つとして、中学校においては合唱コンクールを実施している。この取組により、仲間と同じ

目標を共有し、他者と関わり合うことを通して、これまでの自分にはなかった見方・考え方に会い、新たな見方・考え方が形成されていくことを期待している。

「体験的な学習」の1つとしては、すべての小学校においてセカンドスクールを実施している。これは、那須甲子青少年自然の家と事業をタイアップし、4泊5日で親元を離れて生活することにより、「自分の力で生活すること」「仲間と力を合わせる事」等々を経験し、体験を基礎とした生きる力や人権感覚を育ててきた。

○ 無意識の人権教育の意識化

これまで無意識に取り組んできた人権教育を意識化することは大変重要である。そこで、まず人権教育全体計画を整備し、教育計画における体験活動への位置づけを図った。また、教員の組織体制を明らかにし、人権教育を意識した指導をすることができるようにした。

また、子供たちが人権について意識することができるように、小・中学校代表者による西郷村子供宣言についての意見交換会を実施し、「西郷村子ども宣言の見直し」を図った。参加した子供たちからは、右記のような意見が出された。

(取組の主体や実施体制)

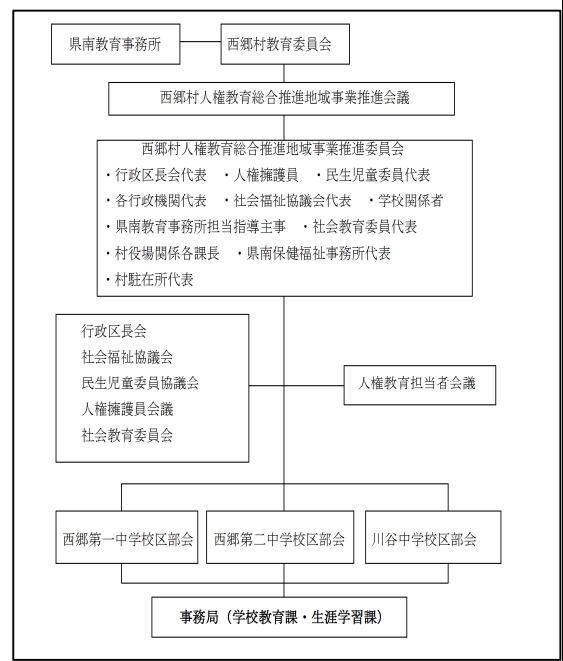
実施体制としては、取組の中心として中学校区を母体とした組織を設けた。3つの中学校区に属する小学校・幼稚園・保護者、そして地域住民と連携して取り組んだ。

推進計画の立案、修正は推進委員で組織する推進会議や関係機関を含めた推進委員会で行った。担当者会議では、各校・園の中心となる教員の研修を実施した。また、必要に応じて県の指導を受けたり、行政区長等の協力を仰いだりすることを通して、村全体での取組となるよう組織体制を整備した。



「子ども宣言についての意見交換会」で出された主な意見

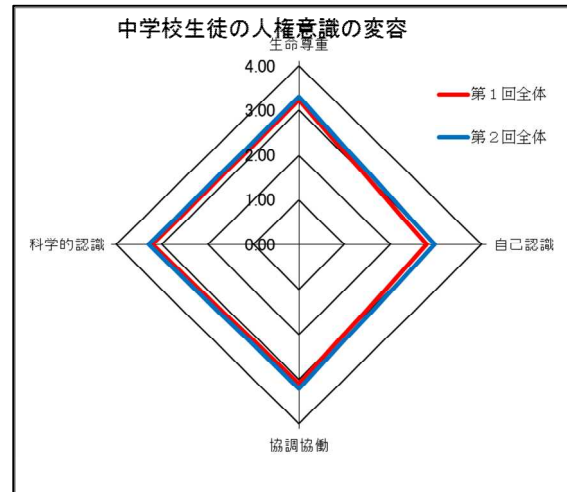
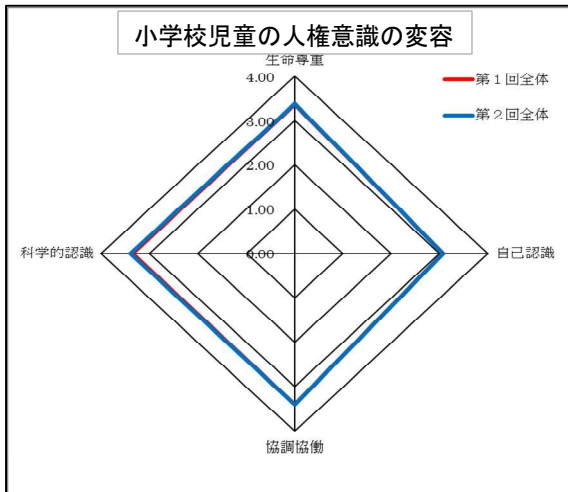
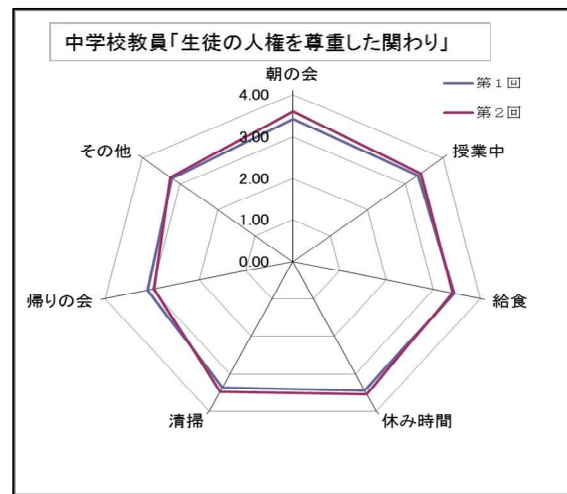
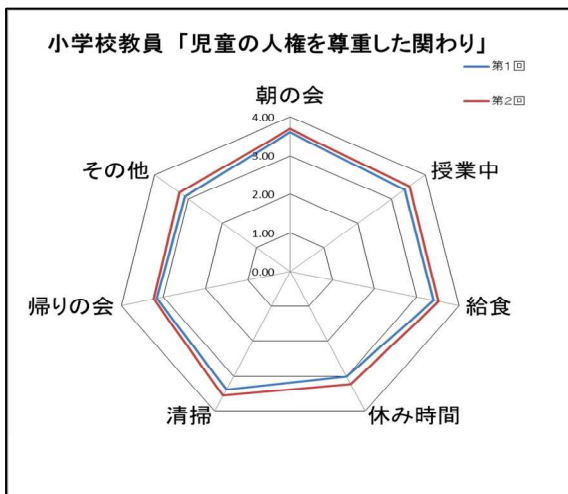
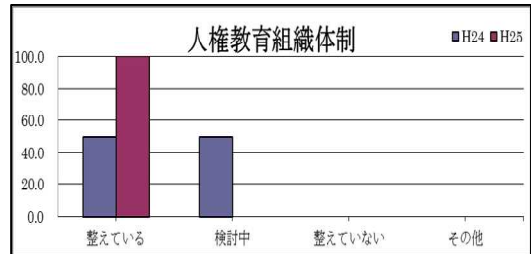
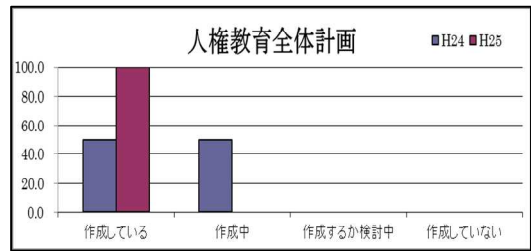
- <内容について>
- 命は大切だから「命を大切にします」を先頭へ
 - 7つの項目を覚えやすくするためにキーワードを追加する
 - 7つの項目をさらにしぼる
 - 「あいさつ、返事」を「笑顔であいさつ、元気な返事」とする
 - 「いじめのない学校にします」を入れる



4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

今年度は、人権教育全体計画、組織体制が整備され、取組の体制を整えたことにより、教員の人権教育に対する理解や意識の高揚が図られ、人権を意識した関わりが多数見られるようになった。また、グラフから読み取れるように小・中学生においても、児童・生徒の人権意識が少しずつ高まってきている。今年度は子供人権会議を実施してきたが、子供宣言への取組が活性化し、人権意識が高まってきていると考えられる発言が多数聞かれた。



5. 実践事例についての評価

これまでの取組を通して、幼稚園・小中学校の連携が深まるとともに、児童生徒・教員・保護者・関係者の人権意識が高まり、今後の人権教育推進の基礎作りができたと考える。このことは、保護者・関係者への意識調査の結果からも明らかである。今後は、この取組を生かしつつ、更に指導法の研修を実施し、人権を意識した指導を積み重ねていくことにより、児童生徒のより良い育ちにつなげていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

福島県・西郷幼稚園、熊倉小学校、小田倉小学校、米小学校、羽太小学校、川谷小学校、西郷第一中学校、西郷第二中学校 川谷中学校

実効ある人権教育の推進に向けて、村内すべての村立幼稚園・小中学校が連携して取組を進めている事例である。“人権教育の課題について学ぶ場と機会の設定”として、研修機会を互いに共有し、先進地視察等を実施するとともに、“人権感覚を育てる具体的な機会と場の設定”として、村立幼稚園・小中学校が連携して授業公開や人権教育懇談会等に取り組んだ事例が示されている。

その中でも、とりわけ「協力的な学習」「体験的な学習」に関する実践事例が紹介されている点が特筆される。「協力的な学習」の一つとして中学校における合唱コンクールが実施され、「体験的な学習」の一つとして4泊5日のセカンドスクールが実施されており、いずれも人権意識や人権感覚の醸成に大きな成果をもたらしたことがうかがえる。今後も村内全域で広域的な人権教育のうねりを拡大していくことが期待される。